

# アンドレイ＝ガヴリーロフ特別レッスン

1. 日 時： 2020年 11月 17日(火)、18日(水) 各日 11:15 ～ 18:30
2. 場 所： F510 / F112
3. 対象学生(必修)： 大学4年「ピアノ演奏法BⅡ」受講生
4. 講師紹介： アンドレイ・ガヴリーロフ 氏 ※ 学内のみ他聴講可  
〔 Andrei Gavrilov 〕

裏面参照

5. 講 義 概 要：

## 11月17日(火)

<b>&lt;2限&gt; (F510) 聴講・大4ピアノ演奏法受講生</b>		
11:15 ～ 12:00	加古 彩子(演特2)	F.ショパン バラード第3番 Op.47
12:00 ～ 12:45	河島 利香(院2)	E.シャブリエ ブーレー・ファンタスク
<b>&lt;3限&gt; (F112)</b>		
13:30 ～ 14:15	大川 未希(特研4)	M.ラヴェル ラ・ヴァルス ニ長調
14:15 ～ 15:00	内田 友咲(演特4)	E.グラナドス 演奏会用アレグロ
<b>&lt;4限&gt; (F112)</b>		
15:15 ～ 16:00	中野 琢斗(演特3)	R.シューマン 謝肉祭 Op.9
16:00 ～ 16:45	原田 真衣(特研4)	S.バーバー ピアノソナタ 変ホ短調 Op.26 第3,4楽章
<b>&lt;5限&gt; (F510)</b>		
17:00 ～ 18:30	吉村 茉莉亜(院1)・山野 太士(院1)	S.ラフマニノフ 組曲 第1番 Op.5

## 11月18日(水)

<b>&lt;2限&gt; (F112)</b>		
11:15 ～ 12:00	原田 友梨佳(演特4)	F.ショパン ピアノソナタ 第3番 ロ短調 Op.58
12:00 ～ 12:45	境 彩希(特研4)	M.ラヴェル 「夜のガスパール」より 第3曲 スカルボ
<b>&lt;3限&gt; (F112)</b>		
13:30 ～ 14:15	馬場 葵(特研4)	F.ショパン ピアノソナタ 第3番 ロ短調 Op.58 1.4楽章
14:15 ～ 15:00	下久 聡二郎(院2)	F.リスト ソナタロ短調 S.178
<b>&lt;4限&gt; (F112)</b>		
15:15 ～ 16:00	田野 萌子(演特3)	G.フォーレ ヴァルス カプリス 第1番 イ長調 Op.30
16:00 ～ 16:45	吉本 結妃名(大2)	J.S.バッハ＝ブゾーニ シャコンヌ
<b>&lt;5限&gt; (F112)</b>		
17:00 ～ 17:45	小山 朋佳(演特2)	F.ショパン ポロネーズ第7番「幻想」Op.61
17:45 ～ 18:30	鈴木 杏菜(演特2)	S.プロコフィエフ サルカズム op.17

## F.アンドレイ・ガヴリーロフ (ピアノ)

Andrei Gavrilov (Piano)

1955年モスクワ生まれ。父は著名な画家、母はゲンリッヒ・ネイガウス門下のピアニストで、3歳から母にピアノの手ほどきを受ける。モスクワ中央音楽学校でタチアナ・ケストナーに学び、その後モスクワ音楽院でレフ・ナウモフに師事。1974年、18歳でチャイコフスキー国際コンクール優勝、同年ザルツブルク音楽祭でスヴァトスラフ・リヒテルの代役を務めて一躍脚光を浴び、煌びやかな国際的な演奏活動を開始する。

1980年までに世界の主要文化都市にて演奏していたが、その後1984年にバービカンとロイヤル・フェスティバルホールでリサイタルを行うまで、政治的理由で国外での演奏活動からは遠ざかっていた。この期間ミハイル・ゴルバチョフに請願し、亡命することなく国外に滞在する許可を与えられた第一号のソヴィエトの芸術家になった。

1985年カーネギーホールでのリサイタルデビュー後、ニューヨーク・タイムズ紙に著名な批評家ドナル・ヘナハンより「大器」と称された。

ニューヨーク、ロサンゼルス、デトロイト、クリーヴランド、シカゴ、フィラデルフィア、モントリオール、トロント、ロンドン、ウィーン、パリ、ベルリン、ミュンヘン、アムステルダム、東京、モスクワ、サンクトペテルブルクなど多くの主要オーケストラ、ハイティンク、アバド、ムーティ、小澤、スヴェトラーノフ、テンシュテット、ラトル、ネヴィル・マリナー他指揮者と共演。1976年から1990年、EMI専属アーティストとして数多くの録音を行った。これらの録音はグラモフォン大賞(1979)、ドイツ・シャルプラッテン賞(1981)、シャルル・クロー・アカデミーのディスク大賞(1985・1986)、国際レコード批評家賞(IRCA、1985)、「世界最高のピアニスト」と評価されたシエナのキジアーナ国際音楽アカデミー賞(1989)などを受賞。1990年10月からはドイツ・グラモフォンよりショパン、プロコフィエフ、シューベルト、バッハ、グリークなどを録音、国際的に高い評価を受けた。

1994年から2000年初頭まではほとんど演奏活動から離れ、哲学や宗教の研究、そして新しい音楽のアプローチ法を模索していた。2000年から徐々にコンサートを再開し2001年、モスクワ音楽院大ホールにて一夜で4つのピアノ協奏曲を演奏し、完全なる復活を遂げた。以来一層精力的に活動している。2011年には自叙伝を出版。2013年の第2版からは、書籍に新たに録音されたショパンのノクターン9曲が収められ、ロシア語、後にドイツ語、英語、フランス語、ウクライナ語で出版された。

2013年4月、長年の夢であったチャイコフスキー第1番・ラフマニノフ第3番など、大編成のオーケストラを要するロマン派以降のピアノ協奏曲の弾き振り(ピアノを弾きながら自ら指揮する)を実現した。以来ヨーロッパを中心に、2017年にはアジアで初めて韓国・ソウルでも公演。オーケストラとソリスト一人一人の繊細で高度な技巧と音楽性が融合され、一体となって奏でられる演奏は大好評を博している。

芸術とは、音楽とは、演奏とは。あらゆるジャンルの多くの先代の著名人から受け継ぎ、演奏活動を休止してまでも探求し続け、辿りついたもの — 音楽という言葉が我々の語る言語に完全に翻訳すること。それらを多くの人に伝えたいとの強い思いから、2018年より楽曲の解釈についてのレクチャービデオ配信を開始。この度自身のレーベル UCM が提携を結んだ DaVinci Publishing より、シューマン・ムソルグスキーの作品を収めた「Music as Living Consciousness 1」と題する CD が2020年11月末にリリースされる。楽曲解説ビデオを含めたオーディオ・ビデオアルバムとして、今後シリーズ化してゆく予定。

(2020年10月現在)